

評価対象	羅 針 盤		方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 学系別くくり募集を導入し、生徒のニーズに対応した教育を実践していますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	希望するコースに進めるよう、入学時からアンケートや個人面談等を実施し、きめ細かい指導を繰り返すことにより目標をしっかりと定めて学校生活が送れるようにします。	A	A	自分の学校が好きだと答えている生徒が90.5%であり、具体的数値目標の80%に達しています。今年度は新型コロナウイルス感染症対策により家庭学習が多くなってしまい、6月からの学校生活の再開により、学ぶ意欲や学校生活への充足感を得ているのではないかと考えられます。	B	B	第1回生徒アンケートより第2回生徒アンケートでは、自分の学校が好きだと答えている生徒が減少しました。理由を見ると、友達関係の項目で減少していました。コロナ禍により学校行事が制限され、人間関係づくりの場面で減少したことが原因ととらえ、次年度の課題とします。
	2 生徒の主体的な学びを引き出す特色ある教育活動を行っていますか。	② 学系、コースの教育活動(ボランティア活動や郊外清掃活動などの奉仕作業を含む)に対して、主体的に取り組めたと自己評価する生徒が80%以上である。 ③ 生徒が学習や研究の成果を発表できる機会を年1回以上設定し、それらの活動に積極的に取り組むたいと思う生徒が80%以上である。	地域社会の行事に積極的に参加させ、地域とかかわることにより、課題を見つけ出させ、解決方法を考えさせ、解決に結びつけます。 学習成果発表会を全校で実施し、かつ、校外の発表会などにも積極的に参加させ、生徒のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めるよう支援します。	B	A	全校では「はい」と答えた生徒は88.1%で、具体的数値項目の80%に達しました。しかし、新型コロナウイルス感染症対策により、多くの行事が中止や規模を縮小したのとなつてしまい、この反動が、何かに出てこないように、生徒の様子を注意深く観察します。	B	A	コロナ禍により授業内容が制限を受ける中で、限られた活動しかできませんでしたが、しかし生徒はそうした理由を理解し、前向きに取り組んでくれたと思います。来年度も創意工夫しながら具体的数値項目の80%を上回るよう取り組んでいきます。
	3 主体的な進路選択を実施するために、進路セミナーや職場見学を積極的に取り入れていますか。	④ 進路セミナーや企業又は上級学校の見学を実施し、進路意識が高まったと感じる生徒が80%以上である。	企業見学や学校見学を有効なものとするために、見学の事前指導を行い、見学のポイントやワークシートなどを提供します。また、外部講師による進路セミナー等を実施し、進路意識の高揚を図ります。	B	B	地域交流は定着化して、充実した活動となっています。今年度はコロナ禍の下、デュアルシステムをはじめ他の多くの交流行事も中止になりましたが、今後も長期現場実習や企業や各種団体、幼・小・中学校との交流や出前授業に継続的に取り組みます。	B	B	外部講師などによる進路セミナーは生徒の進路意識向上及び進路選択に効果を受けています。しかしながら、今年度はコロナ禍によりデュアルシステム等の実施が中止となりました。今後も入学後の1年生の段階から、進路決定する3年生の各段階まで、体系的な計画立案を行います。コロナ禍の影響を考慮し、柔軟な運営・対応が出来るよう取り組んでいきます。
	4 地元企業や地域と連携し学校外実習や体験学習を積極的に実施していますか。	⑤ 利根実産デュアルシステムや、長期就業体験、小中学校との交流活動・出前授業などに満足感を持つ生徒が80%以上である。	地域との連携を図り企業実習や農家実習を行います。また、地域の幼小中学校や特別支援学校等と交流を深め、徳育教育への取り組みや言語活動を意図的・計画的に取り入れていきます。	C	C	新型コロナウイルス感染症対策により、デュアルシステムの中止や出前授業の自粛などもあり、生徒の活躍を支援できませんでした。今後は可能な範囲で生徒の活躍を支援できる場面を検討します。	C	C	年間を通して、新型コロナウイルスの状況を確認に入れて実施できるものは準備をしましたが、先方からの中止の指示や延期、取りやめ等々が続き、ほとんどの計画が倒れ、参加できませんでした。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	⑥ 授業が理解でき、学習に対する満足感・達成感を持つ生徒が80%以上である。 ⑦ 基礎学力診断テスト実施前や定期テスト1週間前から、計画的にテスト勉強に取り組む生徒が50%以上である。	多くの普通科目において、習熟度別学習、少人数学習、選択学習を導入し、生徒一人ひとりに指導の手が入りやすい授業を行います。また、授業展開で生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面を多く設定します。基礎学力診断テストの結果を用いて組織的に学習ゼミを実施したり、定期テスト1週間前には部活動を停止して勉強に集中できるように、工夫して学習習慣や態度を養います。	A	A	協働的な学習やICTを活用した分かりやすい授業づくりに取り組んでいます。引き続き生徒が授業で学ぶ喜びを感じられるようにきめ細かい指導を続けます。	A	A	ICT機器が各クラスに整備され、また生徒一人1台PCが配付されました。授業のICT活用に向けて職員研修を行い、生徒が主体的に学ぶ授業づくりの研修に取り組みます。
	6 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	⑧ 各種検定や、資格取得に取り組む生徒が全校生徒の80%以上である。	検定や資格取得への関心意欲を高め、必須で検定に取り組んだり、積極的に受検者を募集し、計画的に補習や補講を行って合格への支援を行います。	B	A	生徒の学習習慣を身につけさせることで、積極的に資格取得に取り組む生徒を増やします。	C	B	第1・2回生徒アンケート結果とも、資格取得に積極的な生徒は70%台であり、目標の80%を下回りました。コロナ禍によって資格等が中止となつてしまい、目標設定しにくかつたと思われま。次年度は指導計画を工夫しながら生徒の成長を図っていき
	7 組織的・継続的な生徒指導を行っていますか。	⑨ 問題行動で指導される生徒が前年度比の50%以下である。 ⑩ 不登校や転学者、退学者が前年比の50%以下である。	週1回の学年会議、月1回の生徒指導会議を開催し、生徒の情報を共有し職員の共通理解を図ったうえで、一人ひとりの生徒に対応した段階的な指導を実施します。頭髪・服装指導は学年団を中心に徹底指導します。また、挨拶・身だしなみ・遅刻指導を中心に毎朝校門指導を実施し、改善が必要な生徒にはその場で指導します。 学習活動や学校行事、部活動等の一層の活性化を図り、生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面をより多く設定します。また、特別支援及び教育相談係の会議を定例化し生徒の情報を共有するとともに、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に問題を抱えた生徒を支援する体制を強化します。	B	B	問題行動で指導される生徒は減少傾向にあります。学年会議・生徒指導会議以外にも生徒の情報共有を行い、問題行動の未然防止策を検討し、実施します。	B	B	多くの先生方の協力により、問題行動は昨年度から約半減しました。生徒は落ち着いた状況です。今年度も生活指導係会議等を実施し、情報共有を図りながら、生徒指導に取り組むことが出来ました。今年度も全職員が共通理解のもと指導をしていくことを心がけます。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めていますか。	⑪ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めている生徒が80%以上である。	面談や学校生活に関するアンケートから、いじめの早期発見に向けて組織的に取り組みます。	A	B	いじめの早期発見のため、クラスでの面談をはじめ、学校生活アンケートを月1回実施、教育相談係との連携、いじめ防止対策委員会を実施します。	B	B	今後も日常の生徒観察をはじめ、月に一度実施したアンケート結果を踏まえて、いじめの早期発見・早期解決につとめていきます。
	9 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 1カ年皆勤者が生徒数の40%以上である。	家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退を減少させます。	B	B	新型コロナウイルス感染防止のための休業により、生活リズムに変化のあった生徒がいたため、基本的な生活習慣の確立、欠席・遅刻・早退の未然防止に取り組めます。	B	B	今年度は新型コロナウイルス感染防止のため休校があり、生活リズムに変化のあった生徒もいました。学校生活の5箇条を軸とした基本的な生活習慣の確立を定着させる指導をしていきます。
	10 生徒の健康状態に対する適切な指導を行っていますか。	⑬ 治療勧告を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査を受ける生徒が50%以上である。	各種検診の終了後、速やかに保護者あてに受診のすすめを配布し、生徒の受診を促します。	B	B	新型コロナウイルス感染の広がりに配慮しながら受診するよう指導しています。	A	A	新型コロナウイルス感染予防のため、検診の実施時期が遅くなったこと、新型コロナウイルス感染の再流行により受診率が低下しました。しかし、アンケート結果から受診率が50%を超えることができました。
	11 充実した部活動が行われていますか。	⑭ 部活動に加入している生徒が80%以上で、その活動に満足している生徒が80%以上である。	掲示板の設置等で部員の増加に努め、週1回「部活動の日」を設け、職員が部活指導しやすい体制づくりに努めます。	B	A	新型コロナウイルス感染症対策により、各部活動の行事が中止となりましたが、感染対策をした活動が再開されています。今後は目標を持たせ、部活動の活性化を図ります。	B	A	新型コロナウイルス感染防止のため、各種部活動の大会や発表会等が中止となりましたが、校内での文化クラブ発表会を開催したことで、生徒が活躍することができました。今後も部活動の活性化により、前向きな生徒を増やし、明るい雰囲気づくりにつなげます。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	12 3カ年を通して系統的で計画的な指導を行い、生徒の希望に則した進路実現が出来ましたか。	⑮ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 ⑯ 就職希望者の90%以上が年末までに採用内定する。進学希望者については、十分な学校研究を行わせ、出願した大学等に全員合格する。	総合的な探究の時間やHR活動を通じ、「自己の在り方・生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる機会を設定し進路に対する意識の高揚を図ります。また、企業等職業人などの外部講師による進路ガイダンスを開き、進路実現に向けての心構えを育成します。 5月に教職員による企業等訪問を実施し情報を収集します。大学・看護系進学希望者には進学対策の補講を実施します。	A	A	進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒は全校で87.8%(3年生は100%)です。今年度はコロナ禍の下、外部講師によるガイダンス、セミナー等が開催できませんでしたが、3年生の進路実現を最優先に企業や進学先と情報交換し、例年通りの進路スケジュールの確保に努めます。	B	B	外部講師によるワークショップ型セミナーや校内の進路状況などの説明会などを今後も継続して行い、個々の生徒の進路希望に応じた具体的なサポートを行います。
	13 適切な進路情報を提供していますか。	⑰ 学校からの進路に関する配布物に目を通して保護者が80%以上である。 ⑱ 進路の手引きや進路だよりの情報に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	保護者会などで適切な資料を配付します。また、進路に関して関心のあることをアンケートで調査して提供資料に反映させます。 就職や進学の最新の状況、学校での進路行事の様子などを進路だよりとして提供します。	B	B	進路に関する配布物に目を通して保護者の割合が82.7%でした。コロナ禍の下、PTA総会や保護者会での説明会は実施できませんでしたが、「進路の手引き」や「進路だより」を発行しました。直接配布できない場合は生徒を通じて配布しています。	B	B	進路の手引きの全校配布や保護者向け進路冊子の配布、進路だよりの発行を通じ、進路情報の発信を継続していきます。進路に関する配布物に目を通して保護者の割合が全校で83.9%であり、保護者アンケートで質問のあった事項については、進路だより等を通じて回答を行っていきます。
	14 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 学校行事(PTA総会、学年別保護者会、学習成果発表会、学校公開)に積極的に参加する保護者が60%以上である。	PTA総会や学校公開などの学校行事を休日に実施するなど、保護者が参加しやすい環境を整えます。	C	C	新型コロナウイルス感染症対策により、例年通りの保護者会などが開催できませんでした。その中で、学校と保護者との連絡を密にして、生徒情報の共有を図ります。	B	B	進路指導部から配布される資料について、役立っているという生徒が85.0%である。今後も3年生の進路活動体験などを掲載し、進路に関する関心を高めます。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	15 家庭、地域社会に貢献できる活動をしていますか。	⑳ 学校の施設開放や、地域ボランティア活動に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	ファームフェスティバル・地域ボランティア活動・地域貢献・地域交流・もの作り貢献などコースの特徴を考えた活動を実施します。	C	C	新型コロナウイルス感染症対策により、ファームフェスティバルやボランティア活動などが中止や自粛となりました。今後は、可能な範囲で生徒の活躍を支援できる場面を検討します。	C	C	コロナ禍により、例年通りの学校公開や保護者会ができませんでした。次年度は、コロナ対策をしつつ安心して学校公開などに参加できるよう計画していきます。
	16 家庭、地域社会に貢献できる活動をしていますか。	㉑ 学校の施設開放や、地域ボランティア活動に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	ファームフェスティバル・地域ボランティア活動・地域貢献・地域交流・もの作り貢献などコースの特徴を考えた活動を実施します。	C	C	新型コロナウイルス感染症対策により、ファームフェスティバルやボランティア活動などが中止や自粛となりました。今後は、可能な範囲で生徒の活躍を支援できる場面を検討します。	C	C	新型コロナウイルス関係で、すべてのイベントが中止となり、満足のいく結果以前の状況でした。しかし、生徒は、このような状況下であっても、前向きに実習に取り組んでいました。

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 学系別くり募集を導入し、生徒のニーズに対応した教育を実践していますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	A	B	A	コロナ禍により学校行事が制限され、人間関係づくりの場が減少したことで、友達関係で悩む生徒が増えています。 コロナ禍により授業内容が制限を受ける中で、限られた活動しかできませんでした。特に学習成果発表会が中止となってしまいました。生徒はそういった理由を理解し、前向きに取り組んでくれたと思います。	コロナ禍により、デュアルシステムが中止となり、アルバイトも自粛となってしまい、生徒が社会に接する場面がいつもより少なくなりましたことが心配です。	次年度もコロナ禍により学校行事が制限されると思われますが、工夫しながら人間関係づくりの場面が増えるよう取り組んでいきます。 次年度も、様々な教育活動の趣旨をきちんと説明し、生徒が前向きに自分の学びとして受け止めて成長できるような指導を心がけます。 社会人講師や外部講師を招いて、様々な形で生徒が社会について興味関心を高められるよう工夫していきます。
	2 生徒の主体的な学びを引き出す特色ある教育活動を行っていますか。	② 学系、コースの教育活動(ボランティア活動や郊外清掃活動などの奉仕作業を含む)に対して、主体的に取り組めたと自己評価する生徒が80%以上である。 ③ 生徒が学習や研究の成果を発表できる機会を年1回以上設定し、それらの活動に積極的に取り組みたいと思う生徒が80%以上である。	B	B	B			
	3 主体的な進路選択を実施するために、進路セミナーや職場見学を積極的に取り入れていますか。	④ 進路セミナーや企業又は上級学校の見学を実施し、進路意識が高まったと感じる生徒が80%以上である。	B	B	B			
	4 地元企業や地域と連携し学校外実習や体験学習を積極的に実施していますか。	⑤ 利根実版デュアルシステムや、長期就業体験、小中学校との交流活動・出前授業などに満足感を持つ生徒が80%以上である。	C	C	C			
	5 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	⑥ 授業が理解でき、学習に対する満足感・達成感を持つ生徒が80%以上である。 ⑦ 基礎学力診断テスト実施前や定期テスト1週間前から、計画的にテスト勉強に取り組む生徒が50%以上である。	A	A	A			
6 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	⑧ 各種検定や、資格取得に取り組む生徒が全校生徒の80%以上である。	B	C	B				
7 組織的・継続的な生徒指導を行っていますか。	⑨ 問題行動で指導される生徒が前年度比の50%以下である。 ⑩ 不登校や転学者、退学者が前年比の50%以下である。	B	A	A	本年度も学校生活の5箇条を生活目標に継続的な指導を行いました。多くの先生方の協力により、問題行動件数は、昨年度から約半減し、生徒は落ち着いた状況です。 教育相談や特別支援教育による支援は確実に充実してきています。不登校等対策委員会をはじめとした情報共有を大切に、生徒観察や問題の早期対応を徹底しています。 今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、部活動の大会や発表会等の多くが中止になりました。今後も部活動全体が活性化することで、学校の雰囲気づくりをする必要性は高い状況です。また、一部の部活動に入室者が偏る現状についても改善が求められています。	生徒同士の冷やかしかからかいを黙認せずに教員同士で情報共有し、早期対応をすることが大切です。それは小さなことでも把握し、情報共有と生徒理解からの対応に尽力していることが本校の素晴らしいところ。 新型コロナウイルス感染防止のため、大きな声でのあいさつは出来ない状況のなかでも、さすがしいあいさつができる生徒は素晴らしいと感じています。朝の校門指導においても、休校明けから徐々に元気さを感じるあいさつをする生徒が増えました。一方で、身だしなみを整えないで下校している生徒や、歩きスマホをしている生徒がいます。地域に根ざした利根実業高校として、一層の規範意識の向上を図るよう、指導をお願いします。	工業系はクラス数の減少に伴い、創生工学科となりましたが、各系、科、コースの特色を活かし、生徒が主体的に活動できる授業作りを目指す他に、資格取得の試験実施や補習等の効率化を進めてきました。さらに、農業系と工業系の連携から、それぞれの専門性が一層高められる協力体制が構築され、新型コロナウイルス感染防止のため、中止や延期となった各種大会や各種資格取得において、成果をあげることができました。来年度も続くコロナ禍ではありますが、地域や企業との連携を強めていける取り組みを実施し、生徒の社会性や人間性を磨き、進路実現を目指していきます。 生徒・職員には一人1台のノートパソコンが支給され、デジタル化が進んできています。生徒へのマナー指導を充実させ、社会性の向上につなげていきます。 今後も全校集会等で生徒に注意を促したり、地域の信頼を損ねないよう指導し、地域の信頼を損ねないようしていきます。外部からの連絡に感謝し、生徒が地域の方々へ信頼させるよう適切な指導を行います。	
8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑪ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると認識している生徒が80%以上である。	A	A	A				
9 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 1カ年皆勤者が生徒数の40%以上である。	A	A	A				
10 生徒の健康状態に対する適切な指導を行っていますか。	⑬ 治療勧告を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査を受ける生徒が50%以上である。	B	A	A				
11 充実した部活動が行われていますか。	⑭ 部活動に加入している生徒が80%以上で、その活動に満足している生徒が80%以上である。	B	B	B				
12 3カ年を通して系統的で計画的な指導を行い、生徒の希望に則した進路実現が出来ましたか。	⑮ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 ⑯ 就職希望者の90%以上が年末までに採用内定する。進学希望者については、十分な学校研究を行わせ、出願した大学等に全員合格する。	A	B	B				3年生は、当初、コロナ禍の休校期間中に今後の進路活動への不安を抱えていましたが、休校明けからは進路実現に向けて積極的に取り組む姿勢が見られました。 心配していたコロナ禍の求人状況も悪くなく、就職希望者は早い段階で内定しました。 公務員は2名の内定であり、地元市町村への内定を連続して得ることが出来ました。 今年度は「大学入学共通テスト」への移行が行われた。本校では共通テストの受験者はいませんが、各種入試(選抜方法)の動向などに今後も注視します。 1・2年生も進路への関心が高く感じられ、各種進路セミナーへの取り組みなども良い状況です。
13 適切な進路情報を提供していますか。	⑰ 学校からの進路に関する配布物に目を通している保護者が80%以上である。 ⑱ 進路の手引きや進路だよりの情報に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	B	B	B				
14 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 学校行事(PTA総会、学年別保護者会、学習成果発表会、学校公開)に積極的に参加する保護者が60%以上である。 ⑳ 学校の施設開放や、地域ボランティア活動に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	C	B	B	規模縮小でも、生徒の発表・参加の機会を模索しながら取り組んできましたが、ほとんど実績を残すことができなかったことは大変残念です。	新型コロナウイルスの感染状況が、今後も生徒の活動等に大きな影響を与えてしまうことを念頭に、生徒のモチベーション維持に勢力を注ぐことが大切であると考えます。		
15 家庭、地域社会に貢献できる活動を行っていますか。	⑳ 学校の施設開放や、地域ボランティア活動に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	C	C	C				